

米国 製造業部門の好調さを示す水準に上昇（11年1月ISM製造業景気指数）

発表日：2011年2月1日（火）

～製造業部門は世界的に堅調～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

ISM製造業景気指数は60.8と前月比2.3%ポイント上昇

1月のISM製造業景気指数は、60.8と前月比2.3%ポイント上昇し、市場予想を上回った（市場予想中間値57.5、筆者予想56.9）。07年に遡って同統計の改定が行われた。拡大縮小の分岐点である50を19ヵ月連続で上回っているうえ、高い水準を保っていることから、米国製造業部門は堅調さを維持していると判断される。製造業部門はドル安や好調な新興国経済等による輸出の増加に加えて、国内需要の緩やかな拡大に支えられている。

総合指数への構成項目別の寄与度をみると、新規受注（前月比+1.2%ポイント）、雇用（同+0.6%ポイント）、入荷遅延（同+0.4%ポイント）、在庫（同+0.1%ポイント）、生産（同+0.1%ポイント）と全項目が押し上げ寄与となり、総合指数は前月比+1.2%ポイント上昇した。さらに、拡大した業種数は14業種（前月11業種）と増加した。

予想を上回った同統計発表直後の市場の反応をみると、株価は反応薄、10年債利回りは一旦上昇も低下した。為替市場ではドルは対円、対ユーロで強含んだものの一時的な動きとなり、直ぐに弱含みに転じた。

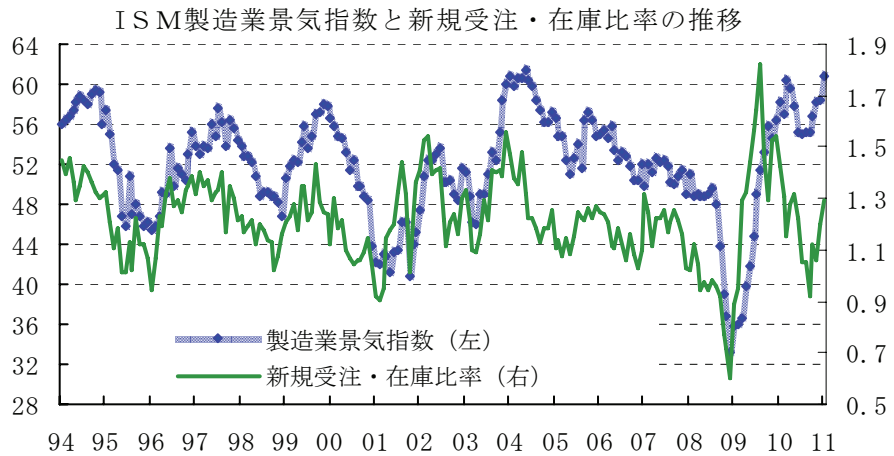
ISM（the Institute for Supply Management）の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
10/05	57.8	61.0	63.8	57.4	46.2	60.6	59.5	77.5	62.0	56.5
10/06	55.3	57.0	59.6	55.6	46.6	57.7	57.0	57.0	56.0	56.5
10/07	55.1	52.9	56.9	57.6	50.3	58.0	54.5	57.5	56.5	52.5
10/08	55.2	53.7	57.2	58.2	50.9	55.9	51.5	61.5	55.5	56.5
10/09	55.3	51.6	58.1	56.9	56.0	53.8	46.5	70.5	54.5	56.5
10/10	56.9	59.9	61.4	57.9	53.2	52.3	46.0	71.0	60.5	51.5
10/11	58.2	59.6	58.2	59.0	56.1	58.1	46.0	69.5	57.0	53.0
10/12	58.5	62.0	63.0	58.9	51.8	56.7	47.0	72.5	54.5	50.5
11/01	60.8	67.8	63.5	61.7	52.4	58.6	58.0	81.5	62.0	55.0

ISM製造業景気指数は高い水準を維持

今後に関しては、世界的な景気拡大の持続による輸出の増加や、世界のハイテク循環がボトムをつけたこと等による生産活動の活発化によってISM製造業景気指数は高い水準を維持すると見込まれる。

トレンドの変化に先行する新規受注・在庫比率が10年9月をボトムに上昇しており、目先景気指数が緩やかに上昇することを示唆している。

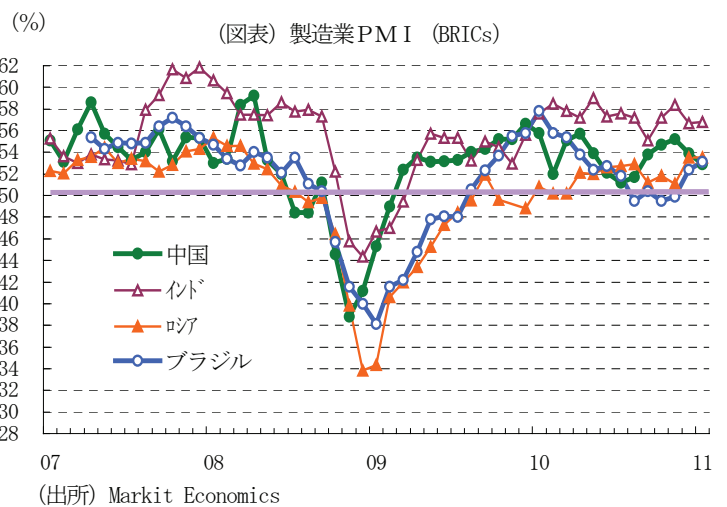
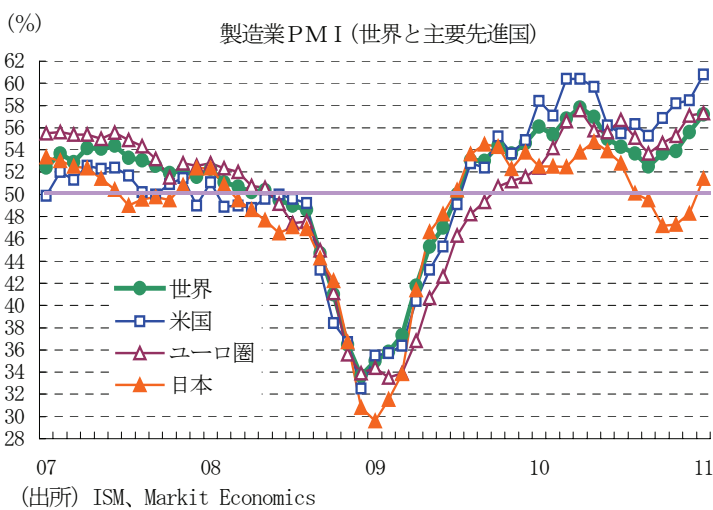


1月の世界製造業景気指数は前月から上昇し堅調さを維持

輸出受注D Iが1月に62.0と前月比7.5%ポイント上昇し、拡大縮小の分岐点である50を大幅に上回った。新興国経済などの好調、ドル安等によって、米国輸出は増加傾向を維持していることを示している。

1月の各国の製造業景気指数をみると、全体として堅調さを維持している。先進国では、ユーロ圏が前月比上昇し16ヵ月連続で50を上回り堅調さを維持している。日本は50を5ヶ月ぶりに上回り製造業部門が拡大に転じたことが示されている。ハイテク部門の影響を受け易い韓国は小幅低下したが高い水準を維持しているうえ、台湾は前月から大幅に上昇し59.8となった。さらに、BRICsでは中国が前月比で低下、ロシアが変わらなくなったものの、インド、ブラジルが前月比で上昇した。前月比で低下した中国も比較的高い水準を維持しており、BRICsの製造業部門の堅調さが示されている。

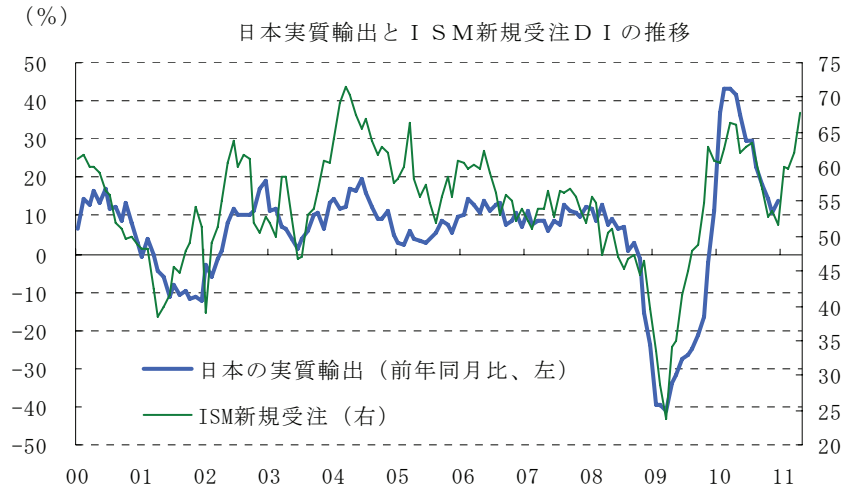
これらの結果から、各国の数値を合成した世界製造業景気指数は1月に57.2（前月55.6）と前月から上昇し高い水準を維持、世界的な製造業部門の好調持続が示されている。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

**各国の米国向け輸出の
拡大ペースは11年入
り後再拡大している可
能性**

遅れて動く傾向がある輸入D Iが1月に55.0と前月比4.5%ポイント上昇し、輸入の拡大を示唆している。さらに、日本の輸出・生産に先行する傾向がある新規受注D Iが67.8と上昇し高い水準を維持していることから、日本を含む先進各国やBRICsなど新興国の米国向け輸出の拡大ペースは、11年に急激に加速すると考えられる。

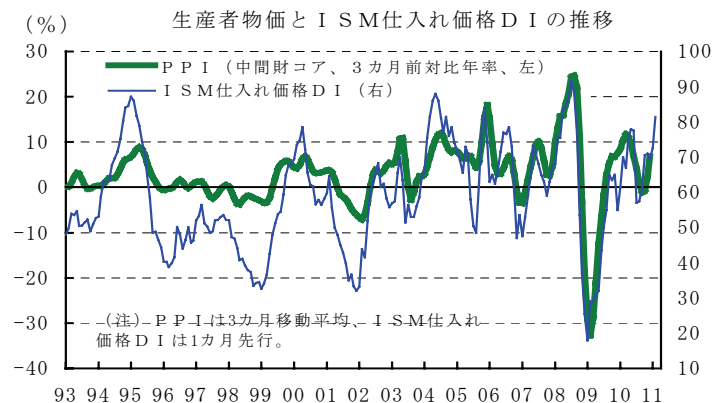
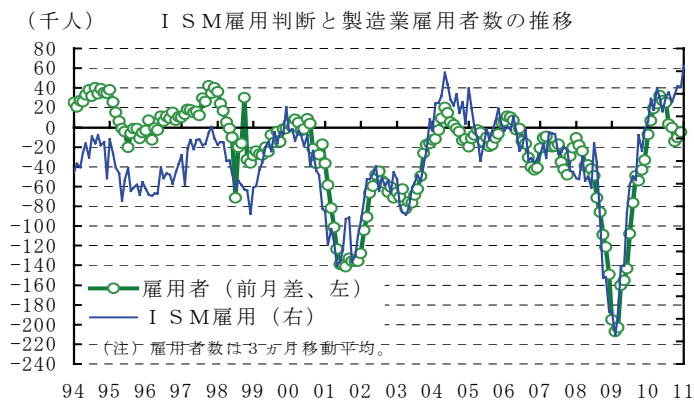


**雇用D Iは61.7と製
造業雇用の小幅拡大
を示唆**

雇用D Iが61.7と前月比2.8%ポイント上昇しており、製造業雇用者数(3ヵ月移動平均)は増加すると見込まれる。ただし、価格競争の激化の中でコスト削減圧力が強く、今後も製造業部門での雇用の大幅な増加は期待できない。

**仕入価格D Iは81.5
と川中でのインフレ
圧力は再び強まって
いる**

仕入価格D Iは、81.5と前月比9.0%ポイントと大幅に上昇した。潤沢な流動性、二番底懸念の後退などを受けた商品価格の上昇によって川中でのインフレ圧力が強まっている。企業収益を圧迫するとみられ、企業は今後コスト削減圧力をさらに強めることが予想され、雇用の拡大ペースに悪影響を及ぼすと見込まれる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。